

講演

① 「年とともに低下する『聞こえ』とその改善」

柳井 修一
東京都健康長寿医療センター研究所
老化制御研究チーム研究員

② 「味を楽しむ ～舌で感じて・のどで感じて～」

平野 浩彦
東京都健康長寿医療センター研究所
自立促進と介護予防研究チーム専門副部長

③ 「50歳を過ぎたら要注意! 年とともに増える眼の病気～加齢黄斑変性～」

入山 彩
東京都健康長寿医療センター眼科医員

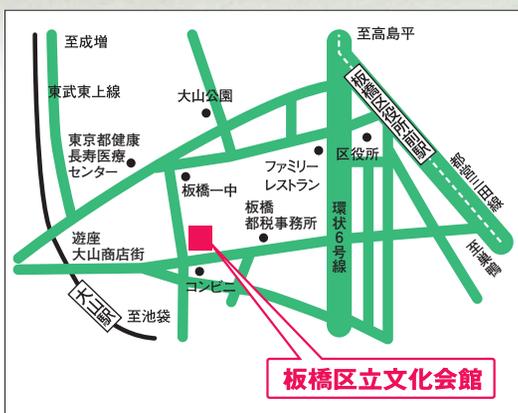
司会 丸山直記 東京都健康長寿医療センター研究所副所長

質疑応答



知覚 世界を広げる

視る、聴く、味わう
喜びをいつまでも



平成 22年 12月14日 (火)
午後1時15分～4時30分
板橋区立文化会館大ホール

最寄り駅

東武東上線 大山駅下車徒歩3分
都営地下鉄三田線 板橋区役所前駅下車徒歩7分

所在地：板橋区大山東町 51-1

主催 / 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 (東京都老人総合研究所)
共催 / 板橋区

手話通訳あり

当日先着 **1200人**
申込不要・入場無料

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター 研究所
(東京都老人総合研究所)

広報普及係

03-3964-3241 (内線 3008)

ホームページ <http://www.tmig.or.jp/>

私達の持つ能力である五感について辞書には「視・聴・嗅（きゅう）・味・触の五つの感覚。これらの感覚によって外界の状態を認識する。」とあります。野生の世界ではこれらの能力が1つでも欠損していると生命の危機にさらされます。幸いに現代社会では、すぐそのような危機に至りません。1つの能力が欠損していても、それどころかヘレン・ケラーさんの様な方でも充実した人生を送ることは可能です。でもそのためには大変な努力が必要となります。多くの人々はこのような努力はしないですめばと思うでしょうね。辞書にあるように五感はその人の世界を広げる能力とも言えます。ところが加齢とともに能力が低下すると、結果として知覚できる世界が小さくなるのは、とてももったいないことです。絵画の繊細なタッチを楽しむ能力、涼やかに鳴く虫の声を楽しむ能力、おいしい食事の「のど越し」を楽しめる能力、これらは私達の生活を豊かにしてくれます。もちろん生活上の危険を減らしてくれる能力でもあります。今回は人間が発展させた五感を刺激する様々な楽しみをいつまでも享受できることを願った講演会です。

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長 丸山直記

知覚 世界を広げる

視る、聴く、味わう
喜びをいつまでも

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター 研究所
(東京都老人総合研究所)

広報普及係

03-3964-3241 (内線 3008)

ホームページ <http://www.tmig.or.jp/>